

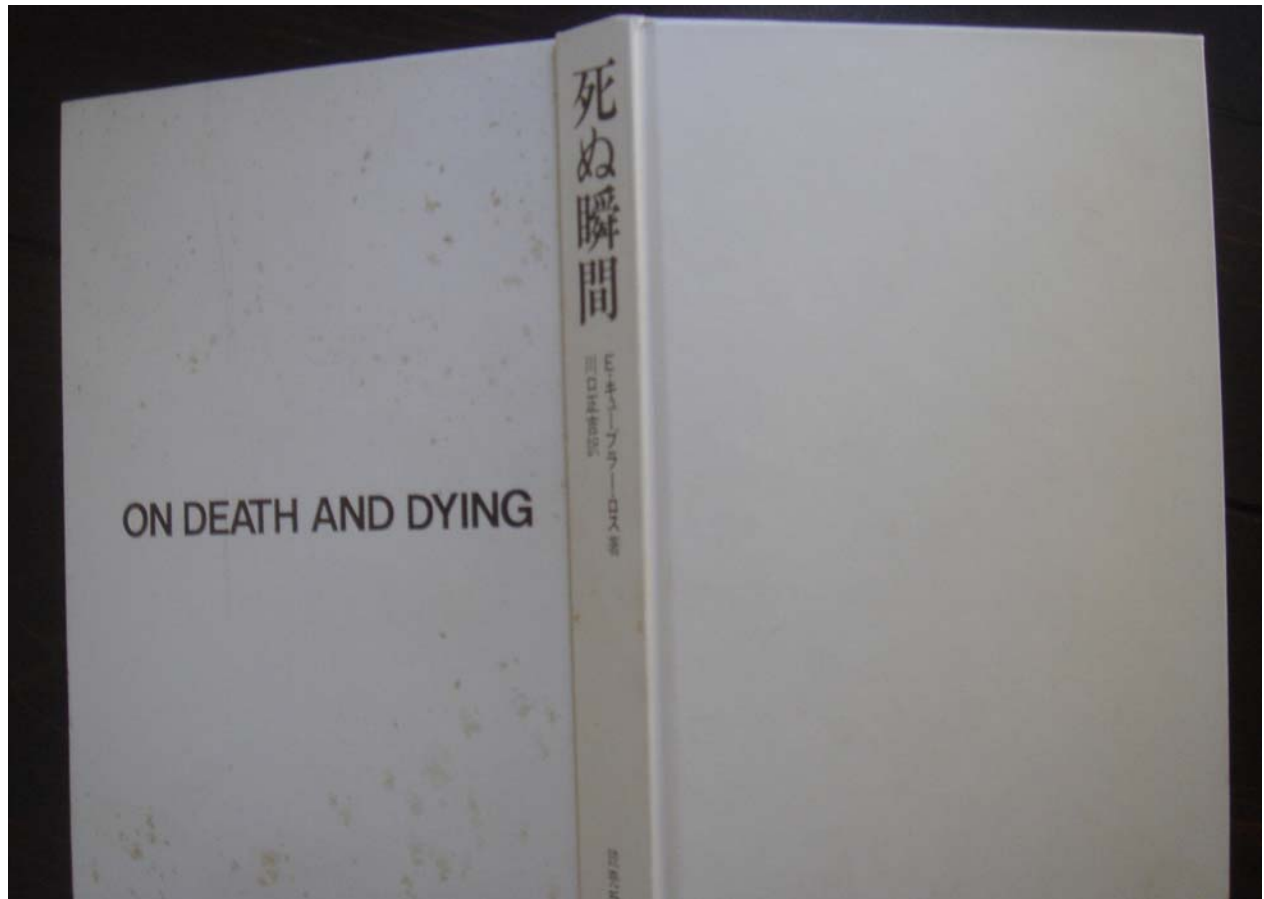
「病院で死ぬということ」から30年
変わったこと、変わらなかったこと
そして、これからのこと

ケアタウン小平クリニック 名誉院長

山崎章郎

「病院で死ぬということ」の前のこと

1983年12月



キューブラー・ロスとの出会い(1988年2月)

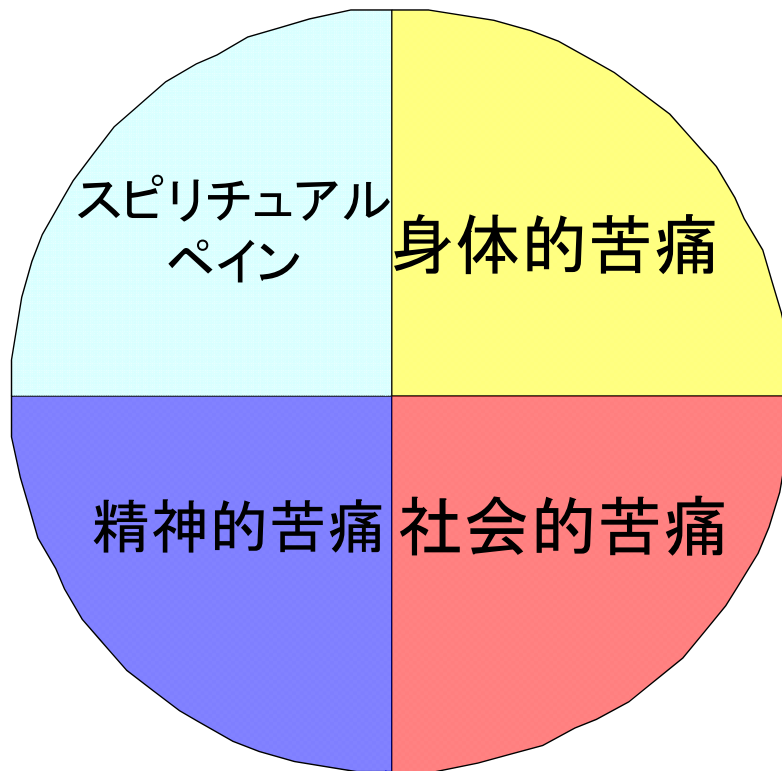


安楽死を望むのは

それは

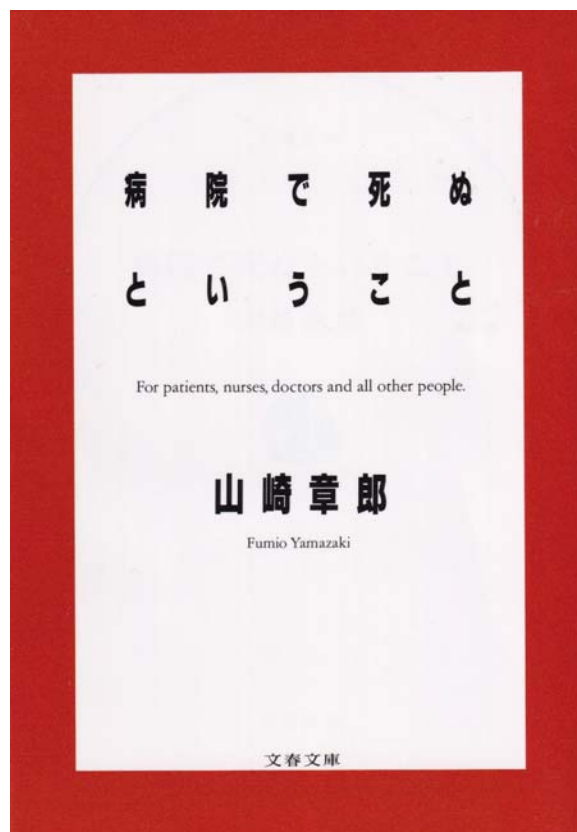
皆さんのケアが

足りないからです



全人的苦痛

1990年

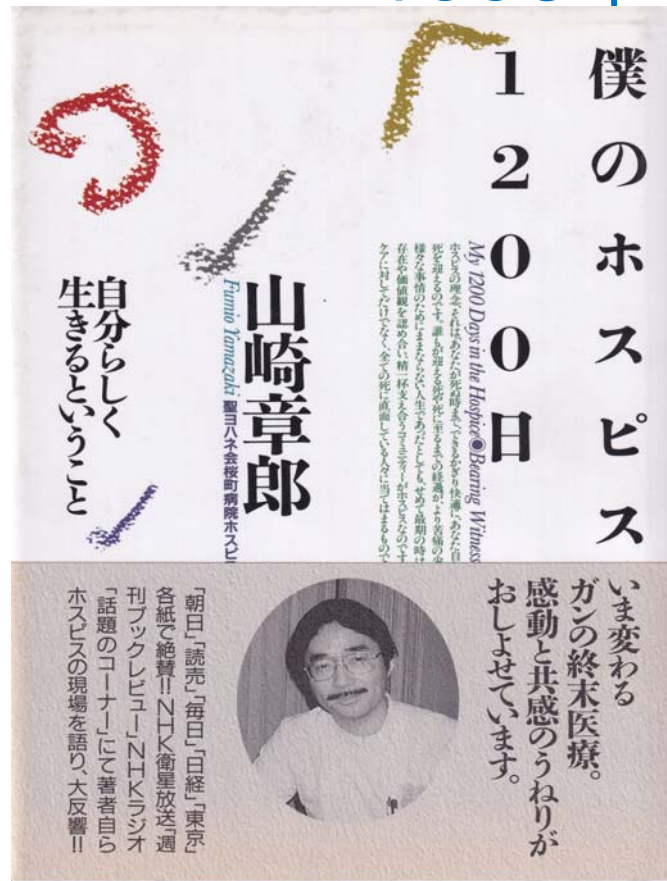


変わったこと

聖ヨハネホスピスで目指したこと(1991年)

- 苦痛症状緩和する
- 適切な情報提供(うそをつかない)
- チームケア
- ボランティアとの協働
- 死に関する話題を避けない
- 困難状況における自己肯定が出来ずに苦悩している人々へのケア(スピリチュアルペインとそのケア)
- 家族(遺族)へのケア(グリーフケア)
- 療養環境の整備

1995年



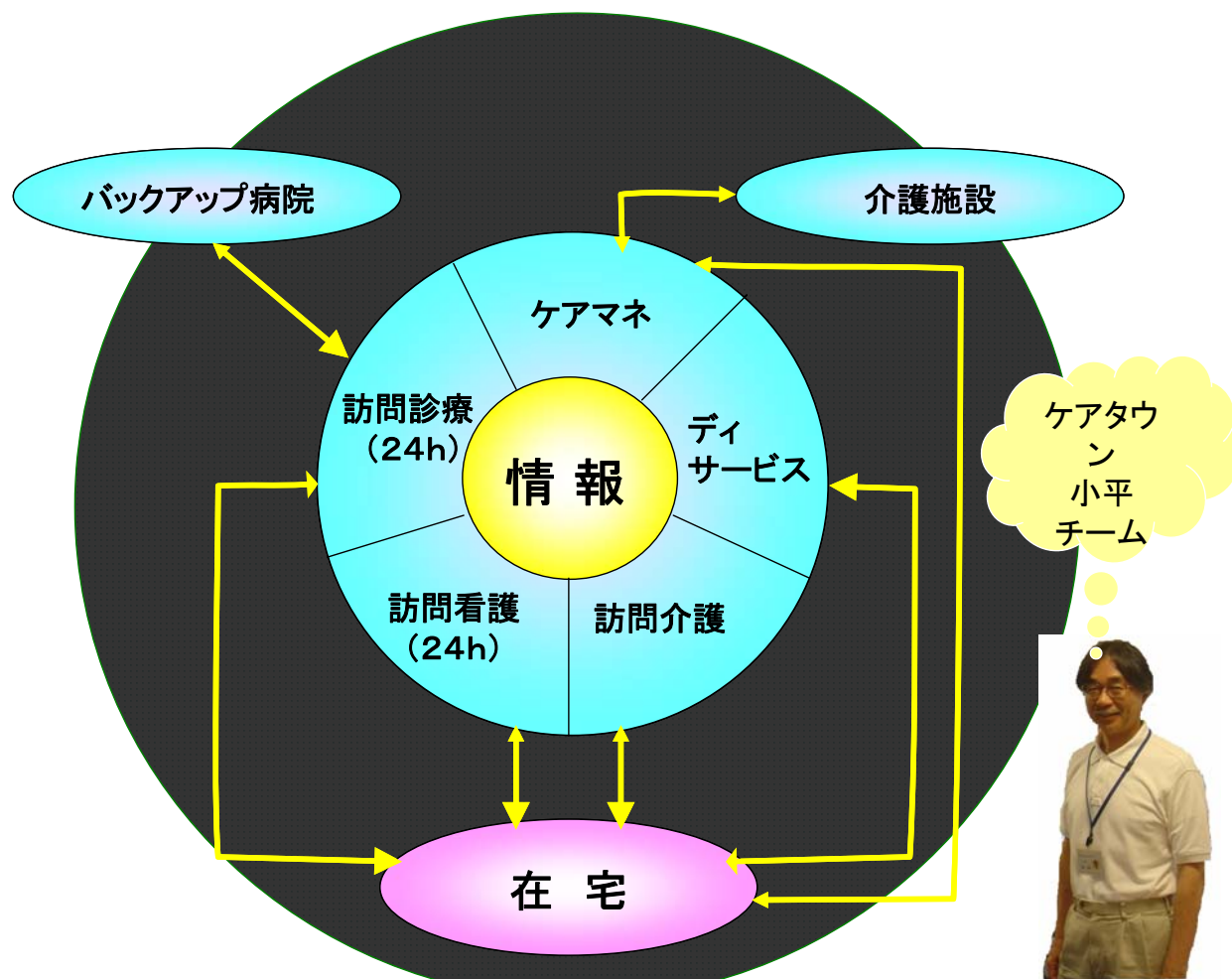
2000年



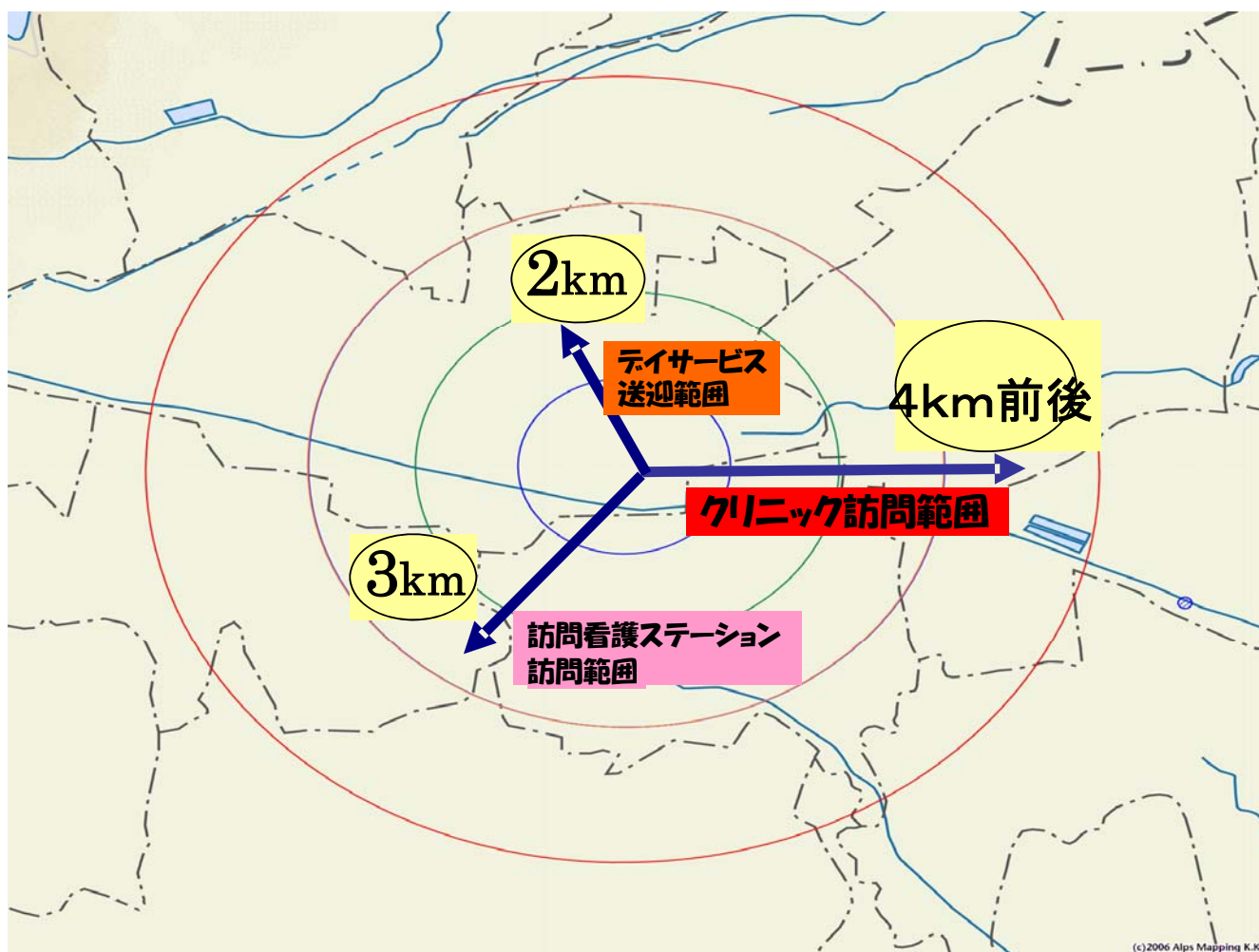
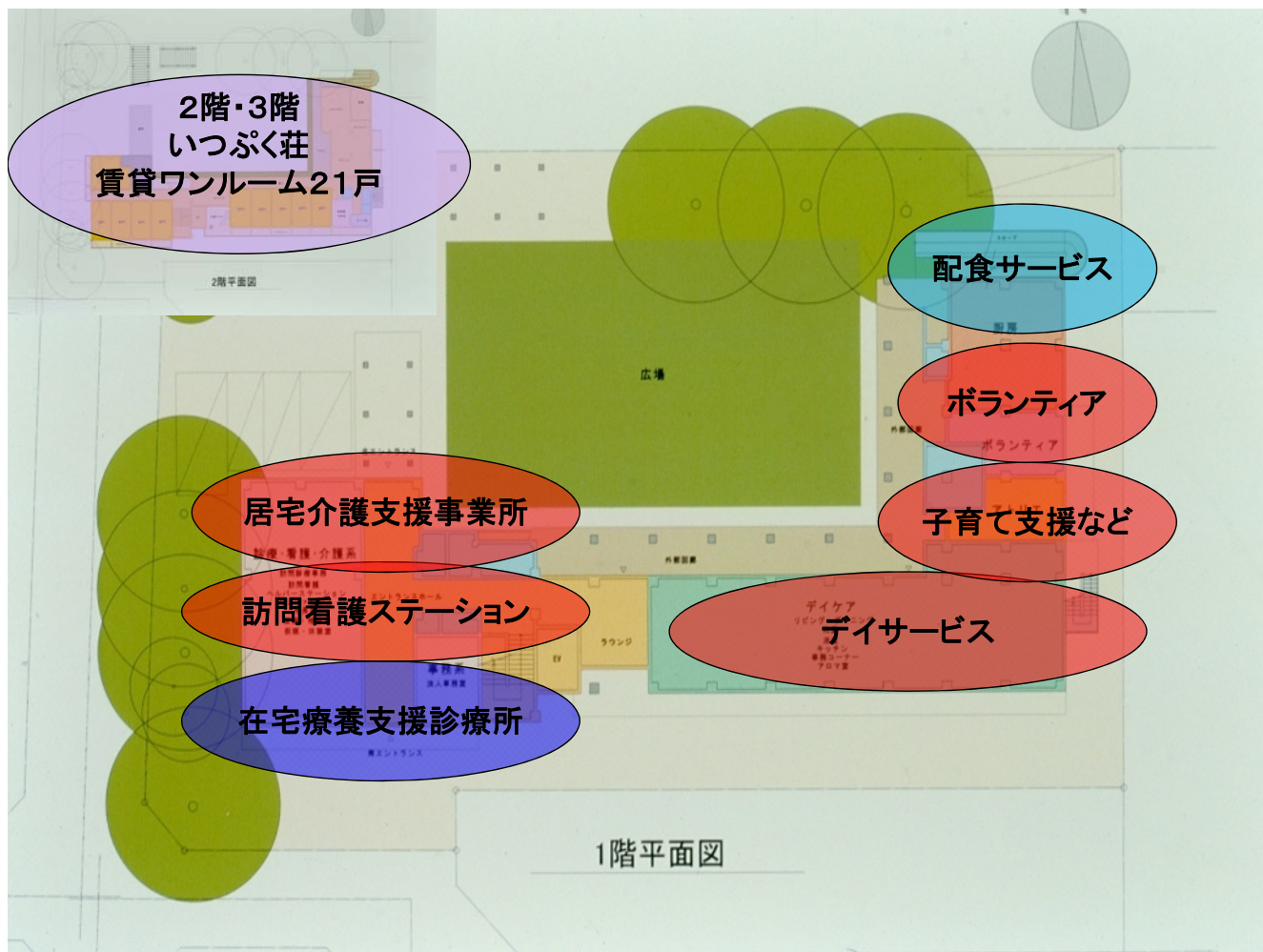
ケアタウン小平チーム その始まりはホスピスだった

- ・ホスピスでケアを受けることができて
本当に良かったです
- ・でも、本音を言えば、家にいたかった
- ・ホスピスチームが、ホスピスで待っている
のではなく、地域に出よう

ケアタウン小平チームの取り組み (2005年)

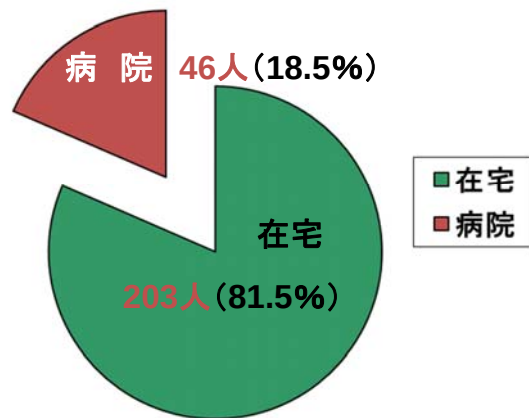


ケアタウン小平外観

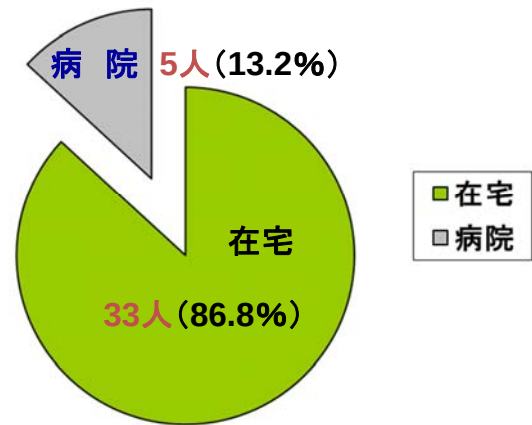


在宅看取り率 直近3年間 (H28年4月～H31年3月)

がん患者 249人中



非がん患者 38人中



2016.4～2019.3

ケアタウン小平クリニック

ケアタウン小平チーム活動エリア内に

毎年、在宅看取りを経験した

約80ご遺族が誕生



遺族会

「ケアの木」誕生

ケアの木かたろう会



ケアタウン小平スタッフ・ボランティア交流会



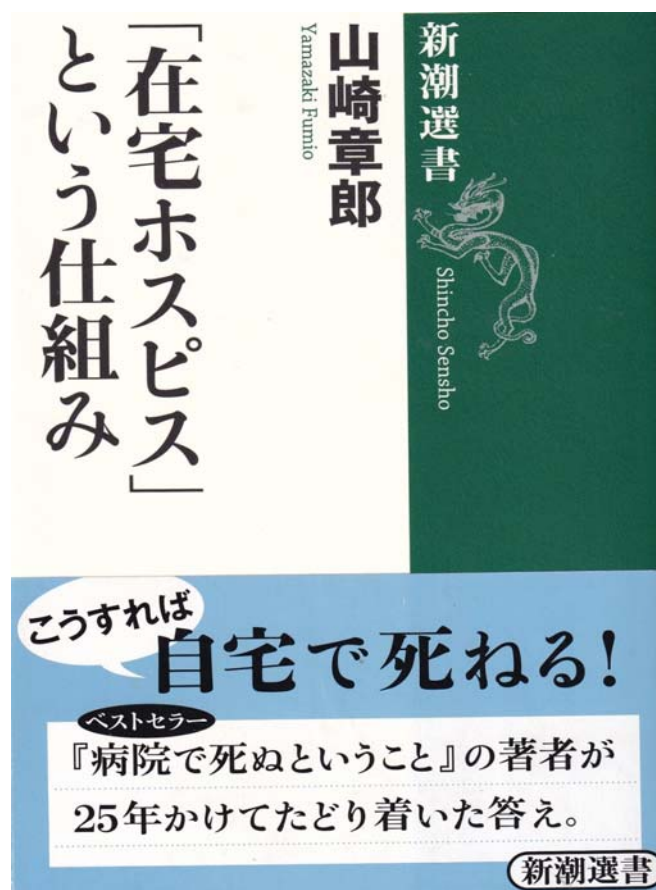
ケアタウン小平チームが目指すことは

最期まで住みたいコミュニティを創ること

それは、たとえガンの末期であったとしても、
認知症であったとしても・・・

最期まで、人権を守られ、
尊厳と自立（自律）をもって
人間らしく暮らせることを
保証するコミュニティである

2018年



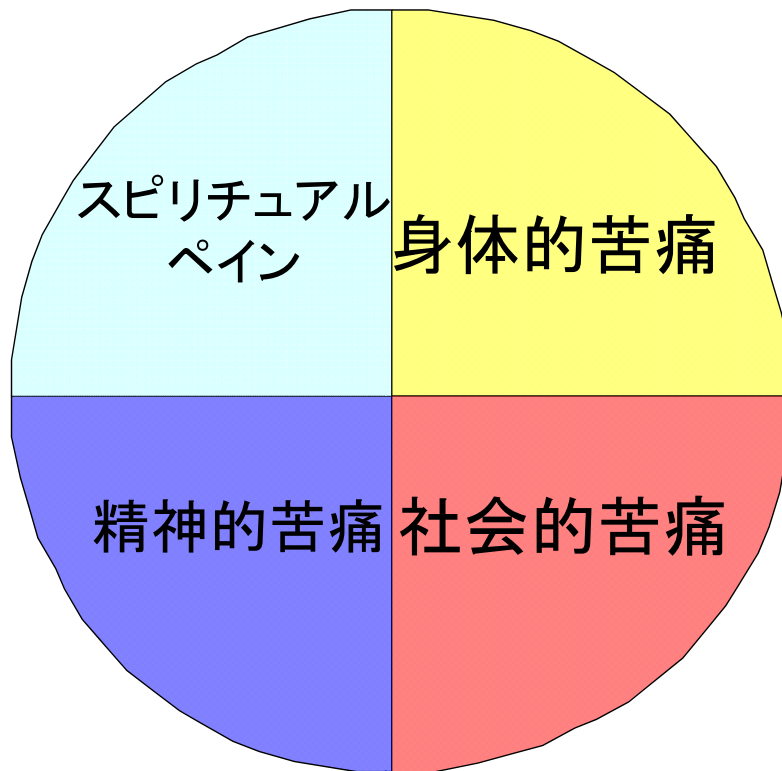
変わらなかったことは

ケアの本質

ホスピスでも、在宅でも

「生きている意味がない・・・」

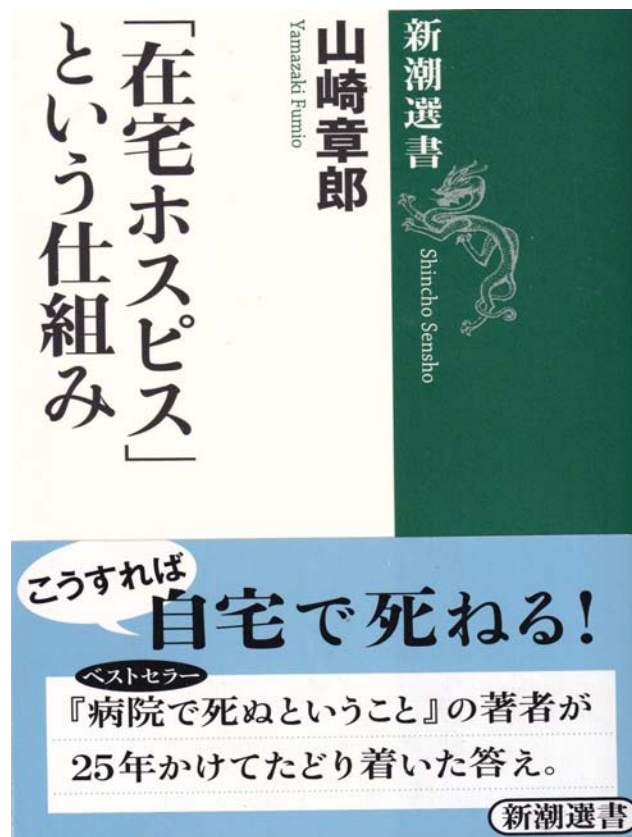
「早く終わりにしたい・・・」



全人的苦痛

2006年





緩和ケアの本質

緩和医療は当然のこととして

緩和ケアにとって、最も大切なケアは

人生の危機的状況を生きる人々が、

その人がその状況の中でも、自己のあり様を肯定し得る

真に拠り所となる他者を見出すことを支援すること

また、支援者自身が、個人として、あるいはチームとして

その人にとっての真に拠り所となる他者として出現すること

すなわちスピリチュアルケアである

これからのこと